

1. 件名：柏崎刈羽原子力発電所 6 号炉及び 7 号炉における基準地震動の変更が不要である説明文書に関する面談について
2. 日時：令和 3 年 1 1 月 4 日(木) 1 6 時 0 5 分～ 1 8 時 0 5 分
3. 場所：原子力規制庁 9 階耐震会議室
4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）
原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門
内藤安全規制調整官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、海田主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、磯田係員、松末技術参与
原子力規制庁 長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門
呉統括技術研究調査官※、田島技術研究調査官※
東京電力ホールディングス株式会社
原子力設備管理部 土木総括担当部 部長 他 6 名※
5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 提出資料
〈〈本年 1 0 月 1 9 日に受取済み〉〉
・柏崎刈羽原子力発電所における標準応答スペクトルに基づく評価について

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	原子力規制庁、谷です。面談を始めたいと思います。今日の面談の内容としては、柏崎刈羽原子力発電所における標準応答スペクトルに基づく評価についてということで、まず資料のほうを説明していただいていた方がいいですか。
0:00:21	はい、東京電力スギモトでございますはお手元の資料ですね、資料 1ヶ所で刈羽原子力発電所における標準応答スペクトルに基づく評価についてと、こちらは御承知して御説明をさせていただきます。
0:00:34	めくっていただきまして、1 ページ目が
0:00:39	前回の会合でいただいたコメントということで、こちらに、こちらの順で御説明をさせていただきたいと思います。前回面談でいただきました御指摘で反映させていただいた箇所を中心に御説明をさせていただこうと思いますのでよろしくお願いたします。
0:00:55	早速No.1 のコメントに対する箇所でございます。
0:01:00	当No.1 については地下構造モデルの逆解析のターゲットに用いた地震についてその代表性を示すことということでいただいております 18 ページをご覧いただければと思います。
0:01:14	18 ページにお示しているのが今回逆解析のターゲットに用いた観測記録ということで、こちらどうやって選定したのかをちゃんと記載するようにという御指摘だったというふうに理解をしておりますのでそこをしっかりと記載するようにいたしてございます。
0:01:30	地表の観測記録を用いて評価してることとは最初から申し上げている通りでございますけれども、下のポツですねとばらつきの少ない観測記録郡大間ターゲットとして用いることによりまして、逆解析の会の 1 次性を高めて、
0:01:46	精度の高い地下構造モデルを同定することが可能になるという観点で、
0:01:52	と地震規模、それから新納距離及び見かけ入射角が類似するような地震区分ですね、これらを使って観測記録のターゲットを用いるということでこれらの地震を選定したというのが選定の考え方でございます。
0:02:10	前回のから見かけ入射角もわかるようにと記載を追記しているということでございます。
0:02:17	代表性について検討したのが 21 ページ以降ということになりますけれども、
0:02:25	最終的に選んでるのが 21 ページ目の一番下の検討条件③としている地震になりますが、その前段として敷地で得られている多くの観測記録からこういうふうな観点でいろいろ検討してみたというところではここは条件が
0:02:43	こういうふうを選定しているのかと条件わかりにくいという御指摘もございましたのでここは少し記載を追記させていただきました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:50	で選んだ自身がどういったものかというのを 22 ページ目にこちらを一覧表で追加をさせていただいております。
0:02:57	ここですね、ちょっとデータの方針と申し上げますかあの前回面談でお示した資料の時にはですね、22 ページ目の一番最後の五つの地震になりますが、2014 年以降の地震ですね、こちらが入っていない検討になって、
0:03:15	ましたので、今回すいませんここは他のデータを追加したという形というかちょっとデータの設定等をですね改めさせていただいております。
0:03:24	ですので、21 ページ目のその地震数が前回から更新させていただいていることになってございます。すいません。そういった形でこちらご覧をいただければというふうに考えております。
0:03:35	こちらは大深度での検討等キカン合わせまして、2021 年の 3 月までの最新の地震を入れた形ですみません、検討更新させていただいております。
0:03:48	検討代表性と申しますか鉄塔敷地周辺で得られた多くの地震使った場合、それから絞り込んでいった場合ということで、そのときのHオーバーVスペクトル比ですとかレシーバ関数について
0:04:04	平均との関係がどうなるかというのが 23 ページ 24 ページ、こちらデータ追加して若干その平均値の更新を行っておりますけれども前回お示した結果と傾向としては変わらないとターゲットとしたものと各平均値はそれぞれ成功するような傾向を確認していると。
0:04:24	いうことでございます。
0:04:26	こちらについては前回コメントを反映しましてこういった形で更新をさせていただいております。
0:04:34	続きまして二つ目のコメントに移らせていただきますけれども、こちらすみませんコメントの記載もちょっと不正確だということで進めません書き方も訂正をさせていただきました。観測記録の伝達関数を用いる際に、平均値を用いる。
0:04:52	用いていることですとか、大湊側で地震数が少なかったということでの考え方をちゃんと示すことと、加えてスムージングの条件をそろえて比較をしてくださいと。
0:05:04	ということでこちらは 30 ページをご覧いただきたいと思います。
0:05:13	30 ページが、改めて大深度観測記録として得られている地震、
0:05:20	すべて個別の地震の伝達関数を重ねて書いているものになります。記録のデータセット図書 20 その 1 ページ前の 29 ページ目になりますけれども、こちらで得られていると荒浜側では 12 地震、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:35	大湊側、少し数が少なくなってしまうから3地震ということで、それらすべての記録の伝達関数をグレーで重ねて書いておきまして、それらの平均値をとったのが黒の波線ということになります。
0:05:50	で、グレーの重ね書きご確認いただきますと、12地震の中で有意なばらつきはないというふうに考えてございまして、伝達関数としては非常に安定してると。
0:06:02	いうように考えてございます。
0:06:04	このことからですねも特に短周期側ですけど、観測記録の特徴的な山タニを抽出してモデルの理論値と比較を行うという観点から、今後この後の検証においては、この点記録の平均値を用いて比較を行うと。
0:06:21	というような考え方で平均値を用いてございます。
0:06:25	次31ページにそのまま平均値使うというときに大湊側が3地震でそれが妥当であるのかどうかというのは会合のときにもコメントをいただいておりますので、
0:06:39	荒浜側では12時真意られてる中で、大湊側と共通の3地震があると。
0:06:45	いうこととございますので、荒浜側の記録を用いまして、12地震で平均をとった場合と大湊側で得られている3地震で平均をとった場合、
0:06:57	これの比較を行ってございます。これが下の段になりますけれども、下の段の黒の波線が12地震で平均をとったもの。
0:07:07	青の破線が大湊側で得られている3地震だけで平均をとったものということでこれをご覧いただきますと、非常によく一致してると重なっているということでございますので、12自身見てもばらつきの影響が
0:07:24	少なそうだということもありますので、もちろんご指摘の通り大湊が少しさん自身と少ないところではございますけれども、
0:07:33	こういった検証を行った結果、大湊側で3地震でも評価している伝達関数についてもある程度妥当なものだというふうに考えて我々としてはもついているということとございます。
0:07:47	そういった確認を行いました上で、この伝達関数の平均値とモデルの理論値で比較したのが次の32ページということで、ちょっとこちらは前回の会合でお示した資料からスムージングの仕方を両者そろえるということで、
0:08:04	これは前回の前回の面談でお示したものと同じということとございます
0:08:11	2番目のコメントにつきましては以上でございます。
0:08:15	続いて三番目ですけれども、今回設定したその地下構造モデルの妥当性確認について今大振動のところだけの確認ということとございましたので、そこだけではなくて解放基盤表面までの浅部、それから、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:32	地震基盤相当までの深部についてそれぞれ示すことということでございまして、まず大深度の記録が得られている深さ
0:08:43	から解放基盤までの浅いところは地震観測記録があるところと、
0:08:49	いうことございましてその確認の結果が得と 35 ページになります。
0:08:56	この鉄塔荒浜側大湊側それぞれ一番下の段は先ほどの絵と同じ大深度からその 1 個上の地震観測点までということで、さらにその上の鉛直アレイありますので、解放基盤を含む浅部までということで、伝達関数の比較を同じように行っていると。
0:09:16	こちらご覧いただきますようによく一致しているということでもともと
0:09:23	浅部につきましてははぎとり
0:09:25	モデルで使っているような鉛直アレイの伝達関数で逆解析をして決めたモデルというのをういてございまして、その時の同定に使ったデータセットとまた今回あの違う大深度の記録がとれてる期間の先ほどの 12 時のところで、
0:09:43	改めて検証ができていうことございまして、ここは記録をよく再現できることが確認できているということございまして。
0:09:54	それからあと、今度、今のが江藤大臣の観測点から浅部の話でございまして、今度そこから当大深度観測点より深部についてもということ、ここは 4 番のコメントとあわせてということになりますけれども、
0:10:10	統計的グリーン関数法による結果でお示しをするということこの 4 番のコメントも前回ちょっと御指摘をいただいてという目的でコメントさん買っちゃったのはちゃんとわかるように記載をということございまして、記載のほうに直させていただきますでございます。
0:10:27	来許可の影響がないかどうかをちゃんと確認するために、今回の地下構造モデルを用いて、
0:10:34	当地震動レベルの確認を目的としたSGFによる評価結果を示すこと。
0:10:40	これが前回の会合のときの御趣旨だというふうに理解をしております。合わせて深いところの妥当性ということも確認をしているということで、御説明させていただきますと思います。
0:10:54	その評価が 37 ページ以降になりますけれども、
0:11:01	対象としておりますが既許可のときにやっております中越地震と中越沖地震の二つの地震ということになります。
0:11:10	目的としましては以下 2 点ですね先ほど申し上げましたように、
0:11:17	許可等と同様にして数字DFやったときに、耐震とモデルを用いた場合のSGFの結果と観測記録、それから、EGFの

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:29	を比較することでは大臣の御んでる用いても既許可に影響がないということをも まずしっかり確認すると。
0:11:36	合わせて耐震のモデルの地震基盤から解放基盤までのモデルの設定の妥当 性についても確認をするということでございます。
0:11:45	評価結果は 38 ページに中越地震、こちらの観測記録が大湊側だけということ で、時許可のときも大湊側だけの評価になってございましたのでこちら一つだ け。
0:11:57	それから 39 ページ目と 40 ページ目が、中越沖地震のほうの荒浜大湊という ことでお示しをしているものです。
0:12:07	前回もちょっとここのご説明がなかなかわかりにくくて大変申し訳なかったんで すが、今回評価した結果が赤の線でございます。
0:12:17	で、もとの既許可でお示していた結果が黒の点線、これが観測記録。
0:12:22	それから青の
0:12:24	実線、これがいいとEGFでやった手法ということでこれの妥当性を検証したい と。
0:12:30	その時にSGFモデルと言っているもので、既許可のときにあったのが、紫の線 と、
0:12:37	ということになります。
0:12:39	ちょっと前回個別に書いていてなかなかその説明が矛盾してるんじゃないかと いう御指摘もございましたので、全体あわせて 41 ページに整理をさせていた だく形にしております。
0:12:53	まず既許可への影響の確認ですけれども、許可でどのような確認をしていた かと。
0:13:00	いうところでまず荒浜側ですけれども、こちらは荒浜側のSGFは褶曲構造の 影響が反映できていないために観測記録とは、地震動レベルが表現する観測 記録の地震動レベルは表現できていないと。ただ、
0:13:16	褶曲構造の影響反映していない補正係数と考えていないEGFの結果とSGF の地震動レベルは概ね同程度だとかを確認しまして、当EGFの妥当性を確認 することに使ったということでございます。
0:13:32	それから大湊側については、中越地震、中越沖地震、両地震を確認しまして、 観測記録とEGFによる結果とでSGFによる妥当性検証。
0:13:45	これが概ね同程度の地震動レベルということを確認したというのが既許可のと きの評価でございました。
0:13:53	今回それに赤の線の評価結果を追加しているという状況でございますけれど も、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:00	第1のモデルを用いた場合のSGFの結果が既許可のSGFモデルのその紫の結果よりも小さくなる紫の結果が大きい傾向というのはこれは事実でございますので、そういう傾向にはございますけれども、
0:14:15	観測記録であり、ありますとかEGFの結果との比較につきましては、この裏の上で書いております既許可のときに確認したような関係性、
0:14:27	これはその既許可の結論を変えるような結果にはならないということは今回の耐震のモデルを使ったSGFの結果でも確認をしたということでございます。したがって、
0:14:40	既許可で行ったSGFによる地震動レベルの妥当性検証ということにつきまして、今回のモデルを用いた場合でも許可への影響はないというふうに当社としては考えているということでございます。
0:14:55	それが既許可への影響の確認でございます。
0:14:58	あわせて地下構造モデルの妥当性についても確認をするということでございますが、そのまま上で確認しました通りですね。EGF等へ進ま荒浜側で申し上げますと、EGFとSGFの結果が概ね同程度であると。
0:15:15	それから大湊側については観測記録EGFSGFテーマ、こちらも概ね同程度というところを踏まえまして、その大深度モデルにおいても、地震基盤から解放基盤までのモデル化においてモデル自体に何か大きな問題があると。
0:15:32	ということにはなっていないものというふうに考えてございます。
0:15:39	深部についてはそういう形で確認をさせていただいたということで、
0:15:46	コメント三番のモデル全体の妥当性確認ということについては43ページのほうで検討のまとめをさせていただいております。
0:15:57	43ページの中段になりますけれども、
0:16:02	確認したことのまとめといたしまして、
0:16:09	耐震の観測点よりも浅い部分については、PS検層を確認した上で記録との整合見てる。
0:16:17	で、それよりも深い部分を含めた全体に対してはちょっと反射法反映した二次元地下構造モデルとの整合確認した上で、今ほど御説明したSGFの結果でも概ね同程度の地震動レベルになることを確認したと。
0:16:33	こういったことを踏まえまして、今般のモデルは、最新の大深度地震観測記録の成功と整合が良好でありまして、地質調査結果とも整合するモデルであるというふうに考えているということでございます。
0:16:49	その従来のSGFモデルがどうだったんだというお話につきましては、これは従来のSGFの評価結果が解放基盤においても適切な結果だったということとはわ

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	かっていますので、そういったシミュレーションに用いるという目的においては適切なモデルであったと。
0:17:07	いうふうに考えてございます。
0:17:09	ただレベルとして今回のモデルのほうが小さくなるというか、前回のモデルのほうが結果が大きかったということを踏まえまして、
0:17:19	これはSGFの結果でこういうことだということでございますので、これが標準応答スペクトルに適用した場合にどうかというのはちゃんと別途検証を別途行っているということでこれは後程御説明をするもので、
0:17:32	ございます。
0:17:35	それで5番のコメントのほうに入らせていただきますが、
0:17:44	標準応答スペクトルの評価はやっぱり褶曲構造を踏まえた上で一次元地下構造モデルを用いることの妥当性代表性を示すこと。
0:17:52	いうことで、会合を前日もサグチさんからコメントをいただいているところでございまして、その考え方をいま一度我々として44ページのほうに整理をさせていただきます。
0:18:07	荒浜側の褶曲構造の影響ということについては上から二つ目の枠の中でございますけれども、既許可の検討の中では我々どうしてもその
0:18:19	褶曲構造の検討ですと、まずその到来方向という検討に頭が行ってしまうので、田口さんがおっしゃってる御趣旨にちゃんと沿ってるかちょっとあれなんですけれども、既許可の検討としましては、
0:18:32	敷地の南西方向から来る地震はに対してのみですね、これが荒浜側のほうが大湊側よりも大きくなると、それ以外の到来方向については荒浜側と大湊側で概ね等しい増幅特性になると。
0:18:46	これをその下の緑三つございますけれども、鉛直アレイの観測記録、それから水平アレイの観測記録。
0:18:55	こちら観測記録の検討とあわせてと二次元地下構造モデルを使った解析的検討と、これら三つの検討を総合しまして、
0:19:04	そういった結論を導いていると、これが既許可での御説明でございました。
0:19:10	従いまして一番下のポツ三つでございますけれども、
0:19:15	あと、敷地の南西側の一部の特定の領域で発生する地震を除いては、褶曲構造によるその特異な増幅は認められないということを確認しているということでございますので、特定せずの評価によって、
0:19:30	受ける荒浜側の増幅特性としては、それ以外についてはその方向でも同じ増幅特性を持っているということでございますので、これは一次元に置き換えて一次元モデルで評価しても大丈夫なんだと反映することが可能であると。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:46	というのがもう我々の考えでございまして、これを採用することといたしてございます。
0:19:51	で、
0:19:53	特定の一部の領域ですね南西側の領域で発生する地震による増幅特性の影響というのは、これは来許可の敷地ごとに震源を特定する、して策定する地震動のほうですね、FB断層の評価において、
0:20:09	反映を適切にしているということでございまして、
0:20:13	FB断層はこの領域で発生する地震って、
0:20:17	答申を特定せずの希望を上回る 7.0 の震源を敷地近傍で考慮しているということでございますので、ここで考慮できているという考え方でこれは留萌のときもこのような
0:20:29	こちらからの増幅特性については特定してのほうで適切に考慮しているということを留萌のときにも御説明をさせていただいてございますので、そこについての既許可と今回で我々として何ら考え方を変えたというものではないと。
0:20:45	いうこととでございます。
0:20:47	で、
0:20:48	最後になりますますが正しいですね、名を
0:20:52	やっぱり
0:20:54	ここで
0:20:56	一部の特定の南西側の領域で、
0:21:00	標準応答スペクトルの波が発生するといいますか表情とスペクトルの地震がこの一部の領域で発生するということを考えた場合にどういう影響があるかというのは念のために、この補足検討として、
0:21:15	確認をちゃんと行っていきたいという趣旨でございまして、この反映方法としては中越沖地震、
0:21:24	なおこの領域の増幅特性を含んでる記録になりますので、それをを用いて、この影響を反映した場合ということを補足検討としても行って問題がないということまで確認をしたというのが我々の考え方でございます。
0:21:39	この結果は一番最後にございますので、この最後にちょっと御説明をさせていただきたいというふうに考えてございます。
0:21:52	すみません。それでコメントの六つ目に参ります。
0:21:57	今回の地下構造モデルと既許可の地下構造モデルを用いた場合の標準応答スペクトルの評価に当たる際について示すことということでこちら前回面談の際に御説明というか資料が足りないと御指摘を受けた部分でございまして、
0:22:14	そちら追加して、今回御説明をさせていただいてございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:19	当資料は 51 ページ目以降になりますけれども、
0:22:25	51 ページ目以降の検討につきましては前回の面談でも御説明をさせていただいた通りです
0:22:32	標準応答スペクトルが作られた手順を倣ったような検討をさせていただきまして、それを敷地の地震基盤相当に持ってきた上で、
0:22:42	複数の手法を用いて解放基盤まで引き上げたときにはどういう作業が出てくるかということを確認したということでございます。
0:22:54	まずKiK-netの記録を用いた検討というのが、結果が 53 ページ目以降にございまして、こちらも見方がどうなんだというのは前回御指摘いただいたと思えますので、53 ページでお示しさせていただくと左側のほうに、
0:23:10	どういう考え方で比較をしたのかということと文章とポンチ絵で追記をさせていただいてございます。
0:23:17	各KiK-net観測点の記録の各結果と幅ですね、各記録の幅等もそれらが平均値が
0:23:29	黒の敷地の観測記録に対してどのような関係にあるのか、その幅の中に入ってくるようなレベルなのかも乖離するのかということを確認したということで地震を三つで大湊側ということで 53 ページから
0:23:46	57 ページ目までがその比較の結果ということで、
0:23:51	結果をまとめたのが 58 ページ目になります。
0:24:01	これは前回もご心配ご説明させていただきましたけど
0:24:06	標準応答スペクトル作られた検討に倣ってということですが、はざとり解析についてはここでやってるわけじゃなくて地中の記録二倍したものを使っているということで比較については短周期側の
0:24:18	グレーにしているところではなくて白い白い方ですね、素人で出てる方着目して比較を行っているということでございます。
0:24:27	比較の結果が 58 ページでんですけれども、採用した地下構造モデル、赤の線につきましては、評価結果の平均値が敷地で得られた観測記録を概ね上回る傾向にありまして、
0:24:42	各評価結果の幅の中に
0:24:45	大体下限くらいのところは今観測記録は概ね含まれるような傾向をそれぞれの地震に確認しているということでございますので、採用した地下構造モデルを用いた場合の短周期側の地震動レベルについては、観測記録と概ね整合するだろうと。
0:25:02	ことを検証してございます。
0:25:05	比較ケースとして野田による地盤増幅率とSGFモデル使っておりますが、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:11	野田による地盤増幅率使った場合も、
0:25:15	採用さ地下構造モデルと同様な傾向が見られてございまして、
0:25:20	と平均値はまあ観測記録を概ね上回っていて、幅の中に大体観測記録、敷地の記録が入ってくるというような形で、これも観測記録と概ね整合していると。
0:25:32	いうことで異なる手法、このNodaの方法用いた場合でも、採用した地下構造モデルとまあ、概ね同程度の結果が得られるということをここで検証してございます。
0:25:44	一方SGFモデルを用いた場合ですとか、これは、
0:25:49	その上の 57 ページで見ていただくとあれですが、
0:25:52	幅を見ても幅の下側についても可搬敷地の観測記録の黒い大分上回るような傾向。
0:26:01	見られておりまして、敷地の記録から乖離する傾向を確認していると。
0:26:06	いうことでございますので、SGFモデルを用いると観測記録と整合せずに、過大評価となる傾向が顕著であると。
0:26:14	いうことを確認してございます。
0:26:17	以上を踏まえまして、
0:26:19	標準応答スペクトルに用いる。
0:26:21	モデルとしては、今回採用した地下構造モデルはまあ観測記録と概ね整合するのでこれを採用することは妥当であると考えていると。
0:26:30	SGFモデルのほうについては、観測記録のレベルと整合せずに、過大評価となる傾向が顕著でありますので、これは採用することは適切ではないと考えているということでございます。
0:26:43	この原因については、下に※※でちょっと小さい字で書いてございますが、
0:26:49	やはり柏崎刈羽はその地震基盤が相当深いと他のサイト差に比べても相当深いということもございまして、
0:26:56	許可の統計的グリーン関数法に用いたモデルは高周波遮断周波数の影響も踏まえたモデルとなっていると。
0:27:05	いうことでございまして、これをこのまま標準応答スペクトルの評価に適用することは難しいだろうというふうに考えているということでございます。
0:27:14	これは
0:27:16	結局SGFの評価につきましては、地震基盤の段階でfmaxですね、fmaxによってすでに短周期側も落とされた経営を
0:27:27	介護基盤まで引き上げてくるということで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:32	東村SGFの葉系を上げてくるには枚モデルであったということなんでございますが、そうではなくて観測記録を非引き上げるのにも今回のように使うと言う場合には適切ではないのではないかとというような考え方でございます。
0:27:48	逆にその観測記録と合うようにですね地盤の減衰を考慮したような今回のモデルですと、
0:27:55	それをSGFのほうに持っている、やはり短周期側が少し小さくなるということでその先ほどのSGFでお示した結果の短周期側が少し小さめだったということも整合する結果だというふうには考えてございます。ですので、
0:28:13	すべてのサイトのこうだというわけではないと我々も認識していますがやはり柏崎刈羽のようにこういったその地震基盤が深くて今回の評価において引き上げる暗証深さといいますか距離といいますか、ナガイサイトではこういったところの影響がボンものすごく大きく出てくると。
0:28:32	いうことを今回確認をしたということでございます。
0:28:36	59 ページ目が前回御指摘をいただきました。
0:28:42	各ケース野田の方法とそれからSGFモデルを用いまして、標準応答スペクトルを検討してみた場合にどのような差異が生じるかという御確認をお示したものでございます。
0:28:55	色を変えてございませぬので、今回の評価結果があった。
0:28:59	Dの段の増幅率が緑、数字FMモデルを用いた場合が紫ということになってございます。
0:29:07	赤の今回採用したモデルによる応答スペクトルについては、ものであるの増幅率と短周期側では概ね同程度の地震動レベルとなっておりますし、比較としてもともと地震基盤相当面の標準応答スペクトルと、
0:29:25	それから既許可の特定せずということで留萌の地震の線も合わせて重ねてお示しをしておりますけれども、
0:29:33	この許可の震源を特定せずの留萌の地震と単周期側の地震動レベルとしては、赤の評価結果は、大きな差がない結果になっていると。
0:29:43	いうことでございます。一方でSGFモデルを用いた場合というのは、先ほどKiK-netの記録の検証のほうでお示した傾向と同様になってございまして、短周期がものすごく大きくなるような結果になってございます。
0:30:00	従ってこれはちょっとほか等もレベルが間違ってくるということでございまして、これは標準応答スペクトルへの
0:30:08	敷地の地盤増幅特性の反映としては適切ではないものというふうに我々としては考えてございます。その原因としては先ほど申しあげたようなことを我々として考えているということでございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:22	そういった際について今一度 60 ページ目には
0:30:27	モデルの設定のところからですね、どういうことで、設定して検証してきたかということ、いま一度整理してございます。これは新しい内容をここに入っているわけではなくてここまでの検討も改めて整理したということでございます。
0:30:43	左側下の表譲渡スペクトル今回用いたと地下構造モデル、これは結局標準応答スペクトルの評価に用いることを前提としたということでございますけれども、
0:30:55	ちょっとまずモデルの設定の条件としては荒浜側大湊側それぞれで地下構造をとってすると
0:31:02	元帥には観測記録に基づいて最適化された同定結果の値を用いて設定している。
0:31:09	モデル自体の妥当性というのはPS検層結果であるガスとか、二次元地下構造モデル反射法をもとにした二次元地下構造モデルの速度構造との整合確認した上で、大深度地震観測記録を用いて観測記録との対応を確認したと。
0:31:27	で、その上で標準応答スペクトルに用いるのにだとかどうかということで先ほど申し上げたような
0:31:34	敷地で得られた記録とKiK-netの記録を使った検証して、また妥当性を確認したということでございます。
0:31:42	一方右側のSGFモデルにつきましてはこれはもともとSGFの評価に用いることを前提としたモデルだったと。
0:31:50	ということ。それからモデルの設定条件のところにもありますが、荒浜側と大湊側で標高 300m以深は、
0:31:58	共通の地下構造仮定して荒浜大湊同じモデルを使っていたと。
0:32:03	それから減数については、SGFに用いる上で全挿同じ一律の全挿で同じ値を設定していたと。
0:32:12	いうところもございまして、
0:32:14	検証自体はその解放基盤においてシミュレーション結果と観測記録、それからEGFの結果も見て、この観測アート解放基盤表面におけるレベルとしては妥当なことを確認しておりましたのでSGFにモデル。
0:32:30	用いるモデルとしては適切だということはこの時もちゃんと確認していたと、別にそれは適当なモデルを設定していたというわけでは決していないというふうに考えてございますが、それを標準応答スペクトルに用いようとした場合には、短周期側で観測。
0:32:47	6 棟まず振動レベルが乖離するということを今回確認しましたので、これを用いるのは適切ではないというふうに我々として判断をしたと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:56	ことでございます。
0:32:58	そのよう要因といいますか下に
0:33:03	検討していることもあわせてこれも再掲ですけれども、従来SGFモデルをつくったときには敷地の観測記録としては300mまでの観測をやっておりますのでそこから浅い部分が記録で直接確認できる場所だったと。
0:33:18	それが現状としましては、大湊ここでは1500m近くまで観測を行っておりますので、その確認ができる範囲が大きくなっていると。
0:33:28	ということで、
0:33:30	その記録を使って確認した1例が右下の絵になりますけれども、
0:33:35	これは限られた大深度が得られている範囲ではございますが、記録とモデルを比較した結果これくらいの乖離はやはりこの深さでもこれくらいのは違いといいますか、出ているということは観測記録上も確認をできてございますので、
0:33:53	でもそういうところのそういったモデルの設定のところに今回の差異の原因があるんだらうと。
0:33:59	いうふうに分析をしているところでございます。
0:34:03	以上が
0:34:06	既許可のモデルを使った場合の標準応答スペクトルの評価も含めた際についてのお確認になります。
0:34:13	すみません、やっぱりちょっと時間を使ってございますが、
0:34:18	次7番が行楽の関係についてですね、ちょっとこちらも前回ちょっと説明が足りなかった部分でございますので当検討を追加させていただきます。71ページをお願いいたします。
0:34:36	柏崎のOracleの関係ということで一番上の枠ですけれども、短周期側では水平鉛直ともSs1に包絡されていて長周期側では水平鉛直ともSs3で包絡されていると。
0:34:52	これを行った関係がその施設の耐震設計でありますとか、地盤安定性の影響の観点からの確認をちゃんと言うことということでございまして、
0:35:05	まずは音スペクトルの比較等でそういった耐震設計ですとか耐震評価を行う上でのこういう周期との関係について整理を行いました。
0:35:17	今一度その包絡の関係ということを確認確認というか整理いたしますと、この真ん中の四角ですけれども、当基準値のSs1と標準応答スペクトルの結果を比較いたしますと、
0:35:33	ファーマ大湊側、これは同じ傾向でございますが、水平方向については、S1がすべての周期体では回っていると鉛直方向の長周期側だけ

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:46	鉛直の長周期側ケース 1 よりも標準応答スペクトルのが上回るというような結果だったと。
0:35:52	でもそこはSs3 のほうで水平鉛直ともカバーできているというところでしたけれども、こういった関係でございますので、
0:36:01	この
0:36:02	鉛直の長周期側という周期体と主要な施設及び地盤の固有周期の関係について、これは大湊側を代表としてということでもともと 67 号機の許可でもございますので、大湊側を代表として確認を行ってございます。
0:36:18	この荒浜側については前回これもご指摘ちょっとあったと思いますが、
0:36:25	Ss3 が水平鉛直ともにすべての周期体で包絡しているということもございまして、ここでも大湊側で確認を行っているということでございます。
0:36:34	それから、もう一点あの応答スペクトルだけではなくてということで時刻歴発見についても、Ss1Ss3 の時刻歴オツケーと今回の標準応答スペクトルの時刻歴 8 系がどちらが施設への影響、
0:36:50	が大きい波であるかということの確認をPRA主要動の継続時間とそれからcf1 累積速度の観点からもあと確認を行ってございます。
0:37:01	その結果が 72 ページ目まずは応答スペクトルと固有周期の関係ですけれども、
0:37:07	原子炉を止める冷やす閉じ込めるのための主要な施設ということで 7 施設を選定してございます。
0:37:14	それに加えて原子炉建屋ということで、下に固有周期の
0:37:20	一応ですね、示しをしております。
0:37:24	これご覧いただきますとこれらの主要な施設については、
0:37:28	水平方向では 0.5 秒程度よりも短周期側ですね、鉛直方向については 0.3 秒程度よりも短周期側にもこういう周期が来るということを確認してございますので、これは水平鉛直いずれに対しましても、
0:37:43	Ss1 のほうが青の線ですねのSs1 のほうが赤の標準応答スペクトルを上回るという周期体でございますので、これは評価の上ではSs1 を用いる方法が標準応答スペクトルを保守的な評価になると。
0:37:59	いうことを確認してございます。
0:38:01	それから地盤についてもですね、地盤もう少し幅を持った少し幅を持った待機でお示しをしておりますけれども、
0:38:10	地盤安定の解析モデル上の固有周期ということで確認をいたしましたかえと水平方向では 1 秒前後ですね、鉛直ウーでは 0.5 から 0.6 秒。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:22	前後ということでございますので、関係としては先ほどの施設と同じでございますし、やはりSs1による影響が大きいということを確認してございます。
0:38:34	したがいまして
0:38:37	鉛直でそのSs I、
0:38:40	よりも、標準応答スペクトルが大きくなるような1秒2秒くらいよりも長周期側というのは基本的にここに設備はないものというふうに考えてございますし、そこにあるとしてもですね、その周期体に対してはやはり緑のSs3を用いて評価する方が、
0:38:57	保守的な評価になるということでございますので、そういった観点から総合的に考えまして、耐震設計の影響という意味では11と3を用いることでカバーできるものというのが我々の考え方でございます。
0:39:13	併せまして時刻歴派遣の方も73ページのほうに、
0:39:18	主要動の継続時間と、
0:39:22	それから右下にございますように累積絶対速度ということで、
0:39:28	加速度8系から積分した値を累積するような施設への影響を見るような一つの手法指標でございますけれども、その観点から、標準応答スペクトルとSs1 S3の比較を行ってございます。
0:39:44	で、これらをご確認いただきますと、
0:39:48	と思う。いずれの指標につきましても、Ss1とSsさんの方がですね、標準応答スペクトルよりも継続時間長いですし、CV値は大きな値になると。
0:39:59	ということでございますので、その時刻歴発見の観点からも当評価上厳しい波であるということはこちらで確認をさせていただいたということでございます。
0:40:11	以上の観点をまとめてございますのが74ページになってございます結論としては同じですので割愛させていただきます。
0:40:22	崩落の関係は以上でございまして最後8番と九番ですね当期許可への影響はないかを確認するためにということでここも前回ちょっとコメントの書き方が明確ではないということで修正をいつさせていただきますが、
0:40:37	まず8番として留萌の地震の評価に対する確認について、これはあと大湊側だけではなくて荒浜側の考え方についても、
0:40:46	地方に説明を追記することと
0:40:49	評価に影響がないということをちゃんと確認をして記載をするということで、
0:40:54	資料のほうは76ページ目になります。
0:40:59	まず大湊側の確認についても前回ちょっとロジックが不明確だという御指摘もいただきましたので、改めまして我々の考え方は整理させていただいてございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:13	76 ページ目の左側の絵になりますけれども留萌の知見については、佐藤他に不確かさを考慮した基盤地震動に対して敷地の地盤物性考慮するということが既許可のときはSGFモデルを使って、介護基盤まで引き上げを行っていたと。
0:41:30	それを今回は大深度モデルを使って影響確認をしてみるということをやっています、
0:41:37	ただしその基準地震動Ss8 としてはそもそもこのSGFモデル引き上げた結果に対してさらに保守性を上乗せして策定をしていたものでございましたので、そういった関係が、今回の第 1 のモデルを使っても変わらないということを確認してお示しをさせていただいたというものになりますそれが 77 ページ目でございます、
0:42:02	最大加速度値の関係を左側の絵に書いてございまして、音スペクトルで確認した結果を右側に書いてございます。
0:42:10	もともと水平でいきますと、SGをひもで解放基盤に引き上げたときに 643 があると。
0:42:18	これに対して保守性を考慮保守性を上乗せして生産 8 は 650 ガルで策定していたというのですが、今回大深度モデルを使いますと、598Galという評価結果を得てまして、これに対して上乗せしたものがSs8 になると。
0:42:35	ということで、この関係性は変わらないということでございます。
0:42:39	右側に応答スペクトルを示してまして当水平方向だとちょっと重なってしまっているのを見づらいの鉛直方向のほうで御説明をさせていただきますが関係としては同じです。
0:42:51	苦労アート紫の点線ですね点線で書いているものがSGFモデルを使った評価結果でこれに対して、上乗せをして苦労のSs8 を決めていたと。
0:43:05	今回の結果は赤の線になりますので、同じように赤に対して上乗せをしたものがSs8 という関係になりますので、こちら
0:43:15	すべての周期体でSs8 がこう上回るような形状になるということも確認してございますので、そういった面も含めまして、
0:43:25	今回の大地震のモデルを用いても、Ss8 に変更はないということを確認してございます。
0:43:32	これが大湊側のロジックを整理させていただいたものでございまして、荒浜側についてはどうなんだという確認をしたのが 78 ページ目になります。
0:43:45	あのまま 2 点確認を行ってございしますがいずれも許可の影響ないという結論でございますけど、まず 1 点目ですね、来許可のときの御説明としましては荒浜側の地下構造モデルの解放基盤より下のそうですね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:00	についてはVS1100 を設定してございました。
0:44:04	で、
0:44:06	したがいまして、これが港町観測点の基盤層の 938 を上回るということで、
0:44:14	これによると地盤物性による
0:44:17	補正の必要ないものと考えられるというような考え方をとってございました。
0:44:22	今回このばVsが変わっているということでございますが、えっと今回設定したのが右側のモデルになりますけれども 997 ということになってございますので、これは既許可のときと同様に 938 を上回りますので、ちょっとこれによると地盤物性の補正は必要ないと。
0:44:39	いうことでございますので、この点について許可への影響はないということでございますまずこれが 1 点。
0:44:46	さらにそのあとの比較の話ですね、既許可ではその荒浜側で、
0:44:53	震源を特定せずと震源を特定しての比較を行って、最終的には特定してのほうで代表させるという考え方をとってますが、
0:45:02	そのときの比較に用いたのは、
0:45:05	保守的に大湊側の評価結果ので先ほどの 77 ページ目でお示しましたSs8 の結果、これはAと大湊側で補正やっていますのでVs730 に補正をしている結果、
0:45:20	を使って保守的にこれを使って特定しての方との比較を行って特定して代表させるというロジックを用いてございました。したがいまして今回もその比較を行おうとすれば、同じように大湊側のSs8 を使うということで、
0:45:37	ございますので、先ほどのページでお示した通りSs8 に変更はございませんので、従って荒浜側についても、今回、
0:45:48	モデルを変えることによって、
0:45:50	この留萌の地震の確認結果が何ら変わるものではないということを確認しているということでございます。
0:46:00	当留萌の関係については以上でございます。
0:46:03	コメントの番号としては最後 9 番目になりますが、
0:46:09	これも既許可の影響がないかということではぎとりモデルはぎとり班の影響がないかを確認することが荒浜側ですね、についてでございます。こちら 79 ページ目以降になりますが、ちょっとこちら側の前回の説明がちょっとあまりよろしくなかったということで、
0:46:26	ちょっと我々今一度ここは見直しまして、
0:46:30	改めて御説明をさせていただきたいと考えている部分でございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:37	まずそもそものそのモデルの設定の考え方を 79 ページ目にお示しをさせていただいております。
0:46:44	許可のときのSGFモデルも今回の大深度モデルもそうなんですけれども、
0:46:50	地表の観測記録をターゲットとして、逆解析をやってますので、モデルとしては地震基盤から地表までのモデルというのを一旦つくってございます。
0:47:00	それを逆解析で同定した上で、モデルの設定といたしましては、地震基盤から解放基盤表面までのモデルを設定をするということをSGFモデルでも今回の大深度モデルでも解放基盤までのモデルを設定すると。
0:47:18	いうことをやってございます。これは
0:47:22	既許可のときも今回もこの考え方何ら変えているものではございません。
0:47:28	同定の範囲については地震計がある深さよりも深い部分を対象に逆解析を行ったということでこれが 250m以深と、
0:47:38	いうことでしたが、モデルの設定としては 284mまでを
0:47:44	設定をしていたということでございます。
0:47:48	これが地震基盤以深のモデルですね、SGFに使うモデル、また今回の標準応答スペクトルの評価に用いるモデルということになります。
0:47:59	それが 79 ページ目にあった上でですね。
0:48:03	80 ページ目がそのはぎとりモデルのお話、今度は解放基盤より上のモデルの話ですね。
0:48:09	になります。ちょっとこのその連続性といえますか、前回その御説明が全くがよろしくなかったということですねません改めさせていただきます。
0:48:19	はぎとり解析に使うモデルとしては、
0:48:23	介護基盤から地表までのモデルとしてで地震観測記録に対して伝達関数にフィッティングさせる形で逆解析を行ってモデルを得ていると。
0:48:35	それで設定しているモデルがこの左下のモデルになりまして、
0:48:40	この解放基盤表面付近については、
0:48:44	右側にPS検層結果をお示ししてますけれども、標高 -230mからマイナス 295 mまで深さでいきますとマイナス 300mまでですけれども、このPS検層結果からこの深さでは同じ速度の層が連続していると。
0:49:03	いうことを確認した上で、
0:49:07	このモデルを使って解放基盤表面のマイナス 284mの位置で剥ぎ取り方超過していると。
0:49:15	いうことでございますので、従いましてはぎ取り
0:49:20	に使うモデルとしてはこれは既許可から何ら変えているものではございませんが、地表から解放基盤表面までの解放基盤より上の部分のモデルについて

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	は、今回変更をするものではございませんので、したがいましてはぎとりはあについても、
0:49:39	79 ページ目でお示した解放基盤より下のモデルの設定を今回変えたことによって、はぎとりモデル解放基盤より上のモデルに影響を与えるということはないということでございます。
0:49:52	したがいましてここについても既許可への影響はないということでございます。で、前回の御説明といたしましてはこの解放基盤よりも下の部分でVSがかわっているのですその影響はというところで、影響評価みたいなことを我々としてもちょっと確認をしてみたということでございます。
0:50:11	だけれども、ちょっとそこは御指摘の趣旨には合っていなかったというところだと思いますので、そこは
0:50:19	見直しをさせていただいた次第でございます。
0:50:23	御説明としてはそういった形になります。
0:50:26	最後に 81 ページ目以降ですなこちらが
0:50:32	途中で申しあげましたの荒浜側の
0:50:36	南西方向からの増幅特性を考慮した場合ということでこちらの結果は前回もお示ししてございますので、ちょっと結論変わるものではございませんが、82 ページ目に比較を示してございます。
0:50:51	崩落の関係としてはもともとの評価結果と変わりません。水平方向については、
0:50:59	Ss1 がすべての周期体で包絡をしていって、静水中で包絡できていないのは、鉛直方向の長周期側ということでこの関係に変わりはありませんので、先ほど包絡の関係について我々の考え方を述べさせていただきましたけど、
0:51:18	そこに対しては同じことが確認できているということでございます。
0:51:23	この青のSs1 については、先ほども申しあげたようにM7.0 を考えていて、そこに対して中越沖地震の検討な増幅を考慮して作っているSs1 になりますので、それと同じような増幅特性を
0:51:41	標準応答スペクトルに上乘せをするといいますか、考慮したような検討を行ったとしても、そのSs1 に対して、特に影響の大きい短周期側ですけれども、Ss1 に対してカバーされるような関係は変わらないということで、
0:52:01	そういった点も含めて
0:52:03	FB断層の評価で適切にその南西方向の増幅特性というのを考慮しておりますので、標準応答スペクトルにはそういった基本的にはですなそこを上乘せして考慮する必要はないというのが、我々の考え方と、
0:52:19	ことでございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:22	すみません、長くなってしまいます申し訳ございません、御説明は以上でございます。
0:52:27	規制庁タニです。説明ありがとうございました。
0:52:31	それ邪魔な考え方とかを確認していきたいと思います。
0:52:39	ちょっと最初にですけど。
0:52:41	これ 60 ページなんですけど。
0:52:45	基本的にはちょっと考えを確認させて欲しいんですけど。
0:52:50	これまでSGFモデルっていうのが、検討していましたがこれまた妥当性券種妥当性を検討するときに、
0:52:59	妥当性を確認するときに使ったので今回新しい地下構造モデルっていうのを、
0:53:05	設定しましたということなんですけど、ちょっとまあここが結構大事なところずっと議論しているようなところかと思うんですけどね。
0:53:14	これって、
0:53:16	モデルの扱いとしてはSGFモデルっていうのも今後今後というか、これは残して、
0:53:24	で、新たに
0:53:26	標準応答スペクトルの評価用にはもう 1 個地下構造モデルを作るっていう二つ目を作ってるっていう
0:53:34	位置付けなんですか。
0:53:36	前回の御指摘もいただいて少し矛盾があるんじゃないかというご指摘もいただいて我々として考え方今一度整理する機会をいただいたと思っていまして整理もしましたけれども、やはり結論としては、
0:53:51	それぞれに適切なモデル化っていうのがあるだろうというのが結論でございますので、おっしゃる通りの考え方が一番適切なのではないかというふうに思いますしそれが両方使えるのがいいと我々も思っているんですがそれにしても使う上でちゃんと検証して使えるのであれば、
0:54:11	これでも使えると思うん思うものもちろんそうなのですが、
0:54:15	今回の評価結果を見ると、それぞれに適切なモデル化というものがあるだろうというのが我々の考え方でございます。
0:54:30	規制庁投入するということは、例えばfmaxの話も何か出てきたんだけど、そういったことを使うときには、今までのSGFモデル。
0:54:42	を使ったほうがいいっていうふうに今後も考えるんですか。東京電力スギモトでございますが、そこ、結局、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:51	SGF持てる等、その時に使っていたfmaxの値っていうのがやはり設置セットでそのシミュレーションをやるものだったというふうに考えてますので、今回のモデルでSGFやったときにやはり短周期側が少し小さくなる結果っていうのは、
0:55:08	つまり、
0:55:10	やはりもともとfmaxで短周期応答している発見に対してさらに地盤のところでも減衰をちゃんと二重に二重に考えてしまっているというか、そういった状況におそらく今回の結果になっているんだらうということを受けとめておりますので、
0:55:26	今回のモデルを使うのであればそれに適切なfmaxの設定というのがあったんだらうというふうに考えてますが今回は比較のために同じ震源を作って震源のところの考え方同じでモデルを入れ替えて評価をやった結果を示してますけれども、
0:55:43	そういったチューニングといいますか、そういう考え方がやっぱり必要だったんではないかというふうに考えております。
0:55:53	規制庁刀禰です。だから地盤おんなじところの地盤を見るのことにしてもなんか
0:56:00	何ていうかね。前提とかで、
0:56:02	こっちのSGFモデルを使ったほうがいいときもあるし、
0:56:06	標準応答スペクトルの評価に用いた地下構造モデルを使ったほうがいいときもあると。
0:56:12	ということで、例えば今後、
0:56:14	今後っていう言い方ですけど、地下構造モデル、今回の大深度モデルっていうのを使うんだったらfmaxから何から
0:56:21	もっと見直したりして、全体を考える。
0:56:25	だから今のところはSGFモデルっていうのがずっと生き続けるんだっていう
0:56:30	話ですね。
0:56:32	東京電カスギモトです。そのSGFでの妥当性検証というところで使った点ではそのままだというふうに思ってますし、今回の標準応答スペクトルに対しては、
0:56:43	標準とする。今回のモデルを
0:56:47	検証した上で使っているということでございます。はい。
0:56:51	はい。とりあえず今後確認しました。ちょっとしつこいようですけど、留萌っていうのは、
0:56:59	留萌を検討するときにはどっちが結局、御社としては、
0:57:06	今の資料ではSGFモデル化も急いで今回確認しましたよっていう

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:11	それは変わらないでいいですよ。
0:57:15	東京電カスギモトでそこはもう既許可の話でもありますのでそこに変更はなくて影響がないことはちゃんと確認したとあとはこの考え方でございますが留萌の地震というのは結局入力している深さがマイナス 231mでございますので、非常に浅い部分、
0:57:32	柏崎において破砕部分ですね、今回の標準応答スペクトルはマイナス 2700m ぐらいに入れてますので深さが全然違ったと。
0:57:41	で、200-231mと申しますのは、SGFモデル点もマイナス 300mまではちゃんと観測をしてわかっていた深さの部分になりますので、そこに対してもそういう確認もした上で、
0:57:59	留萌の地震に使っていたということでございます。ただそれを今度そのまま標準応答スペクトルに使おうと思ったときには、深さが入力する深さが全然変わってしまうので、改めて検証して今回モデルを作ったという整理を我々としてしてございます。なので
0:58:19	スペクトルを見ていただいても 232 れた時には今回のモデルでもSGFモデルでも大きな違いが出てこないというのは
0:58:26	77 ページ目でしたか、ご確認をいただければと思いますけれども、
0:58:35	77 ページ目ですね。はい。この深さに入れてあげる部分ではどちらでも変わらないということもMacにはちゃんとしてございますしもともとそういう
0:58:45	ことで留萌のときはSGFモデルを使っていたということでございますので、そこについて考えを変えるということではございます。
0:58:56	規制庁たんですが、確認できました後ですねさっきちらっと言いましたこの 59 ページの下に書いてある。
0:59:03	fmaxの影響も踏まえたモデルとなっておりますというのはこれこれ多分ですね、説明を聞くと、
0:59:12	私も何となくわかるんですけど。
0:59:14	何かこの一文でこう見ると、
0:59:18	何かとても、どういう意味なのかなっていうのがわかりにくくて、何か説明を聞くと、
0:59:27	fmaxがじゃあ違うんですかとか、
0:59:30	なんて言うんですかね、今回、構造地下構造モデルが精緻化したんだったら、fmaxもんでは、
0:59:38	変なというか入ってたんですかとか何かそんな後期気持ちもったりするんですけど、何かここをどういう意味なのかっていうのもちょっと何か。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:48	次追加で説明して、資料上ですね、していただいたほうがいいのかというふうに思ってますけど、どうなんですかね。
0:59:57	東京電カスギモトで3の、すみません、私もちょっと説明をしていてなかなかこの一文だけでは苦しいところがありましたので、ちょっとそこはしっかりと説明できるように1枚終了追加してこの我々の考え方をちゃんとお示しできるように、
1:00:13	したいと思います。
1:00:17	はい、お願いします。
1:00:23	規制庁投入す後ですね、21ページ、22ページとかというのが、これは前回、
1:00:33	の面談から考えを落としていただいたってところなんですけど。
1:00:39	これって私確認したかったのは、結局、検討条件にから検討条件3にするっていう考え方も書いてあるんですけど、検討条件3③っていうのに合う地震っていうのは実はもっと沢山ある中で、
1:00:56	4地震だっ選んでるのを選んでるでそれが何かおかしなも選んでいないっていう説明なのか、いやそうじゃなくてこういうフローで流したらさここ地震規模が同程度の地震だとか、見かけ入射角の観点で選んだら、
1:01:15	3地震、
1:01:18	左側のフローでは3地震、右側で4地震になるっていう話なのか、ちょっとこの辺がわかんなくて教えてください自尊持っといもっと検討条件さんに会うやつはある。あるんですか、ないんですか。
1:01:32	東京電力のフジオカです。
1:01:34	どう。
1:01:36	実際に言いますと、条件をすべて満たすのは今回選定した3地震のみになるということ。
1:01:45	で、このような記載させていただいております。
1:01:52	そういうことなんですね。
1:01:54	それで、じゃあ、ちょっと
1:01:58	地震規模が同程度の地震群っていうのは、
1:02:02	これ何で同程度じゃないといけなかったんです。
1:02:07	その点につきましては、18ページに今回と選定した地震の
1:02:16	と考え方を
1:02:18	どうも御説明させていただいてるんですけども、
1:02:23	二つ目のポツでばらつきの少ない観測記録部分をターゲットにするということで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:31	制度の地下構造モデルができるだろうということで、できるだけ条件を絞って絞った地震群ということで今 3 地震選んでますが、
1:02:41	あとマグニチュードでいきますと 4.8 からもよく横転そのまま
1:02:46	A. 5 の範囲内にあるような
1:02:49	指針がまとまって補正しているという条件で選びますと、最終的にこの三つが適切
1:03:00	見かけの入射角につきましても大体同じようなものになっているので、
1:03:06	こちらを使ったほうが精度の 1 が構造モデルはできるだろうということで選定しております。
1:03:18	はい、わかりました。これ具体的にも話があったけど、
1:03:22	地震規模が同程度っていうのは 4.8 から 0.5 っていうことですね。
1:03:27	例年、4.85. 3 まで、0.5 の範囲内に来る地震群ということで、
1:03:36	どう確認しております 4.3 から 5 点ですよ。違うと 4.3 から 5.3 までってことですとですね今。
1:03:48	どんだのペア地震群にするかということで
1:03:53	条件変わるんですけども、マグニチュードについては選ばれるものの中のマグニチュードの差が 0.5 いない。
1:04:01	ということで選んでいくと、この三つが残ってくると。
1:04:08	ことになりますので、ペアによっては、
1:04:13	わかりました 4.8 から
1:04:17	どっちかに触れるかわかんないけど 0.5 の範囲になるようなものを選んだ。
1:04:21	ということで、おっしゃる通り、
1:04:24	わかりました。見かけ入射角、
1:04:29	同程度っていうのこれ何難度の話をしてるとか、決まってるんですか。
1:04:36	東京電力フジオカ見かけ入射角につきましては、
1:04:40	大体、
1:04:41	対
1:04:42	とあって、
1:04:44	70 近くということで確認はしてまして、
1:05:01	ちょっとすいません今数字出せないんですけども。
1:05:05	だからね店頭位置で 60 から 80 で選んでるけど、さらに来庫の下でもちょっと絞り込んだっていいですか。
1:05:15	基本的にはそのように選んできております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:23	はい。規制庁タニですけど、これ、その辺のしっかりした指標があって最後参事しか残らないんだってという話だったら、ちょっともうちょっと具体的にさっきの話とか聞いていただきたいなと思って。
1:05:35	たのと、
1:05:39	これ 22 ページの
1:05:43	観測記録って、
1:05:46	これ、
1:05:47	例えばですけど、例えば、
1:05:51	2014 年以降っていうこれだけしかない。これ何か。
1:05:56	これを選ぶにあたって、
1:05:59	どういうのを選んで、例えば中越地震だとか、中越沖だとかは、こっから外れないのってなのか。
1:06:07	何でなんでしたっけ。
1:06:11	もっとですねターゲットとする記録として、M4.0 から 6 ということで震源の
1:06:22	破壊の伝播の影響ですとかそういう
1:06:25	物が入らないようなそれほどほどほどの規模の地震を選ぶと。
1:06:30	いうのがまず前提にありまして、そういった観点で初めに、
1:06:35	フィルタをかけており、
1:06:40	規制庁たんです。うん。そうそれでもMj例えば 7.6 だとか、7.3 とかも入ってるから、僕なんかよくわからなくなったところなんですけど、御説明が不足しており申し上げてごめいませぬ。P波部につきましてはそのような観点で、
1:06:55	M4.0 から 6 というのを選んでいますが、ここにつきましては、表面歯が卓越しているものを選んでくるということが重要かと思っていまして、コーダにつきましては、敷地周辺のM4.
1:07:11	0 から 6 に加えまして、さらに
1:07:14	卓越するだろうということで遠方の地震でマグニチュード 6.5 以上というのも加えまして、すみません、後段につきましてはそのように、幅広に確認をしているということです。
1:07:42	はい、お考えを確認しました。
1:07:50	規制庁タニです。それで、そのあとに、
1:07:53	これ私がちょっと無知なところあるんですけど 23 ページ、ここで
1:07:59	何かこれ。
1:08:01	多分だ。
1:08:03	まず、
1:08:08	これ、この赤線と黒線があってるかどうかというのを見ていくと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:13	三つ目のコーダ部HVスペクトル比っていうのは何かこう、
1:08:18	あまり他とほぼ合っていないように中にこれコーダ部だからなのかなんていうんですかねこの地盤同定するのにどういふなんか優先順位で購読はあんまり
1:08:30	気にしてないのかとか、その辺の考えをちょっと
1:08:34	教えてください。
1:08:36	東京電力の補助課ですと御指摘の通りですねコーダプールの
1:08:43	使い方といいますかにつきましては一番低周波数にあるピーク、
1:08:49	の位置がちゃんと合ってるかという観点で今回は利用させていただいております。
1:08:56	で、その他の章については全体的ないって移動を重視するというような観点で利用しておりますので、そのような考え方もちょっと御理解いただけるように、
1:09:07	どうぞ。
1:09:08	追記なりしたいと思います。
1:09:12	規制庁通り過ぎだからあれなんですかね。ちょっと僕テクニックのの話がよくわかってなくて、P波へ一部Vスペクトル比とかレシーバー関数がしっかり合わせ込んでコーダ部は確認をしているような位置付けなんですか。
1:09:28	それとも高度分もう合うようにしたようなものを何かこう作ってるのか、ちょっとその辺を教えてください。
1:09:35	どうぞ。
1:09:36	コーナー部の
1:09:39	もうターゲットに入っております。
1:09:42	コーダにつきましては1ピークが合うような
1:09:48	そこを重視して
1:09:50	逆解析をしている。
1:09:53	ものになる。
1:10:03	規制庁タニです。今言われたことをちょっと念頭に置くにしてみようと思います。
1:10:13	あとですね。
1:10:14	これ
1:10:18	24ページとかで、
1:10:20	検討条件に係る検討条件3っていうのがおんなじように、
1:10:25	名こう平均値になるんだよっていうような話をしていますけど、これってよく見ると例えばレシーバー関数で、
1:10:33	なんて言うんですかね、上の23ページの
1:10:37	荒浜側、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:41	何となく
1:10:43	ピーク時間に応じた山タニか、全体的に合ってるんですけど、だから 24 ページの
1:10:51	このレシーバ関数の真ん中だとか見ると、
1:10:55	検討条件 2 で言うところになっていそうか判定してるっていいですかね。
1:11:00	何かそういうのが結構
1:11:02	あるように見えていたのはどう、どう考えてどういうふうな影響になるんですけど
1:11:11	あんまり気にしなくていい話なんですか。時後東京電力のフジオカですと、今回の御指摘への出資としましては、今回設定した地下構造モデルが敷地周辺の記録に対して、
1:11:27	また特異なものになってなくて全体的な傾向と整合しているということ
1:11:32	まずは確認すべきだろうということで、当検討条件 123 ということで確認をさせていただきます。
1:11:42	この黒の平均をまず見てそれに対しては外してないということでそれについてはまず問題ないだろうということは考えてます。
1:11:52	ただ、
1:11:53	ネットP波ですとか、こうだについてはそれなりに整合しているということはあるんですが、レシーバーの子につきましてはちょっとばらつきが
1:12:05	ばらつきがあるけれども兵器が抑えられているので問題はないのかなというふうに考えて、
1:12:15	規制庁タニです。レシーバー関数を平均をされているかどうかというのが、
1:12:21	特にこういった大事なところだというようなことですかね。
1:12:28	黒鉛連絡のフジオカです。確かにここについてはご指摘の通り少しばらつきがあるのは気にはなるところですが、全体的な傾向を確認するという観点では特異なものに合わせるというよりはやはり平均的な全体的なと。
1:12:46	一応ちゃんと合わせるモデルが
1:12:49	現実的な成果に近いモデルだろうというふうに考えておましてそういう観点からは平均に近いと。
1:12:56	というのは、力強いって、
1:12:59	商工なのではないかなというふうに考えていて、
1:13:03	規制庁タニです。はい。
1:13:06	あんまり細かいことを今の議論になってしまうんで。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:10	ちょっとこの辺にしたいと思うんですけども説明としてはあれですよね荒浜側も大湊側も検討条件 1 検討条件に検討条件 3 っていうので。平均的なことを見れば、
1:13:22	問題ないような記録が検討条件 3 で選ばれているというようなことを説明しているということかと、ちょっと説明聞いてもいいました。
1:13:42	あと、引き続きちょっと細かい話なんですけど。
1:13:46	32 ページで、
1:13:50	荒浜側の
1:13:53	水平方向の
1:13:57	これ伝達関数、
1:13:59	なんですけど、何か大湊側をね、確かにこの平均気温観測記録って言うてる子破線と黒破線と赤いのが同じような
1:14:09	レベル、レベル感といったらいいのかなとおんなじようなところにきてるのわかるんですけど、何か荒浜側あって、
1:14:15	あんまり
1:14:16	大湊側に比べると乖離があるように見えるんですけど、この辺何か分析されてるんですけど、このなんで。
1:14:24	ちょっと大湊買おうよりは、
1:14:26	違って見えるのかとか、
1:14:32	東京電カスギモトでございます。若干違いはあると思ってございますがそれでもSGFモデルと比べますと観測記録とよく合うようにはなって開改善はできているというふうに考えてございます。テーマ、それは次のページのシミュレーションを見ていただいても
1:14:54	前やや下回る部分はあるにはありますけれどもそれでも
1:15:00	SGFモデルと比べると観測孔ちゃんと説明できるモデルになっているというようには考えております。
1:15:12	規制庁通りです。仰られてることをSGFモデルよりはいいよっていうのは、
1:15:19	書いている通りわかるんですけど。
1:15:23	うん。
1:15:24	はい。そこに着目してて別にこの平均値が高い理由だとかそういうのは、
1:15:32	分析っていうほどはしていないってことですかね。
1:15:36	東京電カスギモトです。ここの区間の部分についてどうかという観点ではそこまでの分析を行っていない。
1:15:54	はい、規制庁たんです。
1:15:58	あと、ちょっと飛んで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:03	主要周期体の話 72 ページなんですけれども、
1:16:12	今回
1:16:14	主要な施設のこういう周期っていうのを、
1:16:17	入れていただいているんですけど。
1:16:23	何ていうんですかね、Ssを使って何か評価するっていう
1:16:28	ことに関して言うと、これだけではないような
1:16:32	検討しているのがあるんじゃないかと思うんですね、例えば、例えばですけど スロッシングの話だとか、
1:16:41	そういったものを何て言うんですかね、網羅的にここに
1:16:47	落とすことはできないんですか。
1:16:51	当東京電力杉本です。なかなかすべて、
1:16:56	網羅してということだと難しいということもありますので、今回その主要な設備 を中心にとすることで止める冷やす閉じ込めるの観点でもこういう形で記載をし ましたか、ご指摘の通り、長周期が何かないのかっていう話だとスロッシングと か
1:17:14	というご指摘はそうだと思うんですが、スロッシングの評価ですと、これ鉛直使 われないで評価されて、水位が依拠するという話ですので、そういう意味では水 平方向もすべて包絡されているということもありますので問題はないだろうと思 ってますので、
1:17:31	そこの辺の整理、整理の仕方といいますか、記載の仕方というところで網羅性 をちゃんとということでしょうか。
1:17:39	はい、規制庁タニです。そうですね。今の例えば説明で言うとスロッシングを例 えばここに入れるとしたら、水平方向にしか
1:17:48	ここ矢印でいいん中 1 秒とか 2 秒とかですかね、そういうところに入ってくるん だけど、鉛直方向に入ってくないよとかいうのが何かもう少しこの地震動評価 をどうするっていうのはどういうことをされてるのかっていうのが、
1:18:03	網羅的にこう記載していただけたら何かこちらとしても、
1:18:08	今日判断できるのかなっていうふうに思ってます。
1:18:13	で、
1:18:15	もう 1 点は何か他のサイトでの議論で鉛直と水平とセットで考えるような評価 って、
1:18:23	いうのがありますよっていうようなことを介護とかで言ってますので、そういった 検討って、何のときに、御社のほうの評価としては水平鉛直水平をセットで評 価しているような評価点何かあるのかとか、
1:18:39	そんなことをちょっと

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:41	説明いただけるといいんですけど、今何かあります、鉛直水平セットで評価している。
1:18:49	ここ、
1:18:49	地震動評価。
1:18:51	時地盤安定の話ですか、
1:18:56	二次元FEMでやるとこ構造物ですね、このまま同時入力をするようなことを考えると、
1:19:04	そういったところもあるかなというふうに思いますので、ちょっといま思いつくところとそうだけれども、
1:19:10	所島さんの趣旨としてはそういうところまで網羅した形でここが見えるようにということだと理解しましたので、ちょっとそこ
1:19:18	検討させていただきたい。
1:19:26	結論はいいか悪いことを会合の場で議論しなきゃいけないけど、
1:19:31	以上短周期を
1:19:39	ほぼ
1:19:40	短周期OSS温度で長周期はS _{s3} でカバーしている。
1:19:47	のでいいんですっていうことを主張されたいわけでしょ。
1:19:50	そうすると、長周期で教習記号でも鉛直が変わってきてないわけだけどS _{s3} だとね、そうしたときにスロッシングをもそうだけど。
1:20:05	そういう形でもってこの波でカバーできてないものはないんですって言わなきゃいけない。
1:20:11	だけど、いや言っていたかなきゃいけないんだけど我々
1:20:15	いや、あるの内のってかようわかんないんです。
1:20:18	東京電力スギモトで確認した結果はないというふうに考えてますので、そういった形で記載をするようにいたします
1:20:27	S _{s1} に対して鉛直でもこの周期、2秒前後から長周期側に来るような設備はないというような形で整理をちゃんとしたいというふうに思います。
1:20:41	これではないとしたところ、大湊側としてはこういったんだけど、荒浜行くとスタックとか、
1:20:48	パックについても水平はおっしゃる通りやはり長周期側に来るんですが、鉛直に関しましてはスタックも鉛直方向密実な構造になりまして非常に短周期側に固有周期きますので、そういう意味でも、
1:21:05	鉛直の長周期側というところに来る設備はないというふうに考え、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:13	だからその辺が皆さんの主張がわかるように該当するんですけど、そっちまず すいません今の主要な設備だけで書いてますのでその辺長いものがどうかと いうところも含めてしっかり記載をするようにいたします。承知いたしました。
1:21:40	規制庁タニです。あとですね、今回コメント5°の回答として81ページから
1:21:49	荒浜側の増幅特性の影響ってということで、増幅特性っていうのを見ても、
1:22:00	もし見たとしてもですか。
1:22:03	83ページ乗り越えませんかよっていうことを説明してるんですけど、これは、
1:22:10	の捕捉補足ですよっていうことなんですけど。
1:22:14	やっぱり、
1:22:16	補足なんです。例えば、例えばというか、
1:22:19	やっぱり御社としては、一部の特定の領域、
1:22:24	ていうのは、
1:22:26	1事件では、
1:22:29	反映できないっていうふうに考えてるってことですよね。
1:22:33	それは中越東京電カスギモトですが、中越沖地震の再現ということ踏まえて も、そこだけは一次元で評価できるものではなかったもので、1Fのときにも補正 係数を掛けて評価をするというようなやり方をして、
1:22:50	いますのでそこについてはそうです。考え方は変えるつもりはありませんの で、そうですが、震源を特定するとしては、ここはそこだけれども全体としては 一次元で代表できるだろうという考え方をとっていても、
1:23:06	留萌のときからは変えていないので、我々のが相当そこご議論になってるの は重々承知しておりますが、我々の考え方としてはそうであると仮にそこで
1:23:21	この標準応答スペクトルの地震が起こったとしてもっていうことを考えても、こう いうレベルであるというのは今回確認をしているという位置付けで考えてござ います。
1:23:33	規制庁刀禰です。
1:23:35	ちょっと多分留萌とは違う話なんだと思うんですけど、だけど、あれですね、あ くまでこれは、
1:23:44	特定してみてるからっていう話話が大前提にあるので、補足に補足で説明して ますよ。
1:23:52	ということです。東京電カスギモトさんのおっしゃる通り、確認の位置付けでや ったということでございます。
1:24:14	はい。
1:24:15	タニですけど、確認しました。
1:24:17	あとですね1点僕の方がちょっとこれ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:20	言ってこれ確認なんですけど。SGFえっと40ページの
1:24:27	40ページのこれ大湊側のSGと実施これ。
1:24:33	妥当性評価で作ったやつなんですけど、これって、
1:24:41	大深度モデルという数字Fモデルっていうのは、
1:24:46	これで基本係数が入ってるんです。
1:24:53	東京電カスギモトです申し訳ありません基本ケースも中越沖地震と中越地震の再現をやっているんで、Ssの評価とはまた別途、別です。
1:25:05	地方あくまで手法これで確認した上でEGFが使えるということを確認した上で別途地震動評価に入っているというような形です。
1:25:19	規制庁単一私が完全に勘違いしてます。
1:25:23	はい、ちょっとちょっとちゃんともう一度見直します。
1:25:43	東京電カスギモトです。はい。FPそのものではなくてあくまで中越沖の再現K3、
1:26:01	観測記録も含めて確認をするという趣旨で、そういったやり方をしているということでございます
1:26:32	規制庁サグチですけども、ちょっと幾つか確認させてください。先ほど御説明もあつたんですけど。
1:26:39	18ページで、
1:26:43	2ポツ目で、
1:26:45	ばらつきをの少ない、観測記録部分をターゲットに用いることで、
1:26:50	逆解析の会の
1:26:52	1次数を高めるっていうところなんですけど。
1:26:56	いろいろ高精度が記録の精度がいいとか悪いとか、そういうのもあるかも。
1:27:04	特定せずという
1:27:06	ものを評価をする上で、
1:27:09	あるなんていうんですかね。
1:27:12	地震群、
1:27:14	というものに
1:27:15	絞って、それが、
1:27:17	その一次性を高めることなんだよというのが、
1:27:21	ちょっとそれ、どういうことがもう1回、
1:27:24	御説明いただいていいです。
1:27:32	東京電力のフジオカです。
1:27:35	地下構造モデルの逆解析という観点でターゲットに整合するような
1:27:45	構造モデルを評価するということをやりますけれども、例えば

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:52	ターゲットはすごいばらついていて見かけの入射角がばらついていたりするとP波部の延長はVの理論値につきましては見かけの入射角をどれか一つに、
1:28:04	当仮定した計算を行いますのでターゲットの見かけの入射角ですとかがばらついてますと、
1:28:13	解が一つに、
1:28:14	止まらないっていうかそういうばらつきの影響も含めた地下構造モデルが同定されてしまうということもありますので、
1:28:24	久米田コバヤシの手法。
1:28:27	本
1:28:29	やり方としてはそういうターゲットはできるだけ絞って条件がほとんど同一とみなせるような地震を集めてきて、それをターゲットにして逆解析をするといったポリシーでこの手法は考えられていると。
1:28:45	考えています。
1:28:46	。
1:28:50	はい。
1:28:52	ということで、これは文献に従って、そういう形をとっていますっていうのは、
1:28:58	答えだったのかなと思うんですけど、そうするともっとさらに確認で、
1:29:04	先ほどタニの方からも少しいろいろのしたかもしれないんですけど。
1:29:10	21 ページの条件で、
1:29:13	結局一番最後の検討条件③っていうのか。
1:29:17	②から③ってこれ 1 割ぐらい。
1:29:20	なっちゃってるんですよ。
1:29:22	例えば、同じような
1:29:25	地震群っていう場所が違うだけで、
1:29:28	場所が違うだけで、
1:29:32	ほかのところで同じようなもので、
1:29:34	それはない。
1:29:37	よろしいですね、この 3 地震なら 3 地震しかも同じような状況のものはない。
1:29:44	そのような、東京電力のフジオカですな観点で確認をさせていただきますのでその記載が今十分できていないということなのでその点につきましては記載を追加して御説明するようにいたします
1:29:59	規制庁サグチですけども、あとごめんなさい、細かいことなんですけどちょっとこれは教えていただきたいんですけど、23 ページ 24 ページで、
1:30:07	いわゆるこれって、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:10	しまえばこれジョイントインバージョンの話なんですけど。
1:30:14	それぞれさっきちょっとタニの方からも確認しましたけど、
1:30:19	どういうものを重視されているかっていうのがあると思うんですけど、例えばなんか重みづけみたいなもの。
1:30:28	されてます。それともこれ全部同じ重みでやってます。
1:30:33	今日電力のフジオカです。先ほど返納ご質問でありましたようにコーダのHオーバーVにつきましては、一時のピークがあって、整合しているものを重視しているということもありますので重みをつけておりますので、
1:30:49	そうそういった観点での記載を充実させ、
1:30:54	させ、
1:30:55	ていただければと思います。
1:31:00	サグチです。わかりました。じゃあそのももとのインバージョンジョイントインバージョンのときには重みを付けを変えて、これを重視するとか、そういうのは、実際にやられているってということですね。
1:31:14	今、そういうお答えだと。
1:31:17	東京電力のおっしゃる通りで、もともと既許可のときに使っていた方法がコバヤシほかというものでこの表でいくところの上のP波部HオーバーVレシーバー関数の二つをターゲットに
1:31:31	地下構造モデルを同定するという手法が提案されておりましてそのあとに、運営だほかということで、2010年ですかの方法につきましてはこの
1:31:45	これまでの上二つの方法にプラスしてコーダ部も合わせたほうがより地下構造モデルができるだろうということで提案されている手法ですので、そういった解析の条件につきましては、ちゃんと記載して御説明するようにいたします。
1:32:02	はい。
1:32:03	サグチです。
1:32:05	あとすいません、細かいことを今回ことなんでちょっと教えて欲しいんですけど、この三つのうち、
1:32:12	どれだとか、例えば速度構造
1:32:15	安田倉庫、
1:32:17	ほとんど影響が大きいものとか、あとは例えば、減衰
1:32:21	あると思いますけど。
1:32:24	に影響が大きいものなのかというのをちょっと教えてもらって、
1:32:29	それともこれ全部がおんなじぐらいなんですかね。
1:32:39	具体的にどうだという、
1:32:42	一言で御説明することはちょっと

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:46	来ないんですけど、結局全体で合わせにいつているのでどれが効いてるだつていうのはあまり
1:32:54	実際としては言えないのではないかなと私としては認識しています。
1:33:01	はい。昨日わかりましたので、
1:33:03	ちょっと飛びますけれども、58 ページで、
1:33:08	これもうさつき谷から核になったんですけど、58、59 の一番下に書かれています。
1:33:14	高周波遮断する発想の影響。
1:33:20	わかるんですけど。
1:33:24	ごめんなさい。よくちょっと私もわからなかったのが、
1:33:29	これ、
1:33:31	あとSGFモデルと今回の
1:33:36	大振動モデル
1:33:39	これ、
1:33:40	同定というのか、推定されてる方法って、
1:33:45	全くこの 23 ページとか 24 ページで、
1:33:48	この一章のやり方じゃないです。
1:33:53	そのときに、その f_{max} がどうなんていうんですかね。
1:33:58	変わってくるのか。
1:34:00	そこだけ教えてください。
1:34:03	東京電カスギモトです。同定の手法というかそれは今フジオカからご説明した通りちょっとバージョンアップしたのを今回使ってますけど、この同定としては基本的には一緒です。ただしえとSGFモデルは同定したものに対して、減衰は、
1:34:22	全挿一律の値で上書きをしています。
1:34:25	それはSGFに用いるために、一定っていうのと、始発異論の
1:34:32	全挿同じ減衰を与え直すということをしてます。今回は同定したそのままの減衰の値を使っているというところでそこがSGFに使う目的と今回の観測記録と合うようにという方針と
1:34:47	ここで違いが出ているというふうに考え、
1:34:50	対策ですわかりました。わかりました。そういうことですね、一律にSGFで評価するときはしているので、今回はそのまま同定で使ったデータ、データやっぱり汚損を使っている。その通りです。
1:35:11	はい、担当ちょっとこれもやっぱり教えていただきたいんですけど。
1:35:15	はぎとりの話ですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:19	ちょっと私もこれ混乱しかかっているんで、もう1回おさらいじゃないんですけど、79 ページで、
1:35:28	既許可、
1:35:29	なって一番左のモデルがあると思うんですけど。
1:35:33	これって、
1:35:35	おそらく
1:35:37	バックチェックとかすごく昔の話だったら別なんですけど、今、今の
1:35:42	新規制基準の強化で行ったらしいの記憶では、こういったなんですかね。
1:35:49	地表から
1:35:50	地震基盤
1:35:52	ここまで
1:35:53	含めて、
1:35:54	一連として、
1:35:57	またされたっていうのは今回初めてじゃないかなと思うんですけどこれ。
1:36:02	今まで出されてました、少なくともこのSGFFモデルと
1:36:08	この80 ページはぎとり地盤モデルっていうのはそう別々に出されてはいたんですけど、
1:36:14	連続して一連のモデルとして、一番左三つみたいな形で出されて初めてかなと思ったんですけど。
1:36:23	そうすると何か。
1:36:25	あくまでも、
1:36:26	今、解放基盤として設定している。そう。
1:36:29	もうS波速度だけでいいんですけど。
1:36:32	剥ぎ取りは820
1:36:35	なんかこの79 ページの数gモデル。
1:36:40	もう含めた形で見ると1110 で今回はさらにこれ997 ということで、
1:36:47	三つですね。そう。
1:36:50	いろいろ
1:36:51	これ、
1:36:53	どれが結局、
1:36:54	荒浜側とかもおみえなどもそうなんですけど、解放基盤
1:36:59	面における介護基盤
1:37:02	そうにおける
1:37:04	そう。
1:37:06	それを結局みたいな、我々は見たいんですけど、数字的

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:13	東京電サスギモトです。まず最初の御質問としては
1:37:19	どう同定をこのようにしますし、地表の記録を使ってターゲットをやって同定を しましたっていうのは既許可のまとめ資料でもお示しているんですが、おっし やる通りこのときに地表まで
1:37:33	こういったつなげたモデルでというのはお示しをしていないとそれはおっしやる 通りですね、今回
1:37:40	お示しし、こここういうふうにつなげてお示したのは、おそらく既許可の資料 の中にはなかったというふうに私も認識しています。
1:37:50	やってることとしては今回と既許可で何ら変えていないというのは資料に記載 していると思うんです。
1:37:59	隊がそれぞれあるというのも御指摘の通りでございますけれども、
1:38:05	基本的にはぎとりはなので申し上げてる通り 820 で剥ぎ取りをされていて、これ はまた、ここから先にいってしまうとこの間のこの辺の説明にちょっといってし まうんですけど、820 を基盤として剥ぎ取ってますので、それよりも、
1:38:20	1110 とか契約 97 になると基盤のVsが大きいということになるので評価として は保守的な評価に関東違反の評価としてですね、これは問題なくなっているとい うふうに考えてございます。
1:38:32	従ってはぎとりの基準地震動をつくる上でのはぎとりとしては 820 でやってい ると。
1:38:38	いうことでございます。もう 1 個壊れるとまたさらにややこしくなってしまうかも しれないですけど、応答スペクトルの耐専の評価はその保守性も踏まえて 700 でやっております。
1:38:50	そのでもそんな、そののなんでしょう保守的な評価という観点も含めてそういつ た
1:38:58	何でしょう、評価の仕方をしてますし、実際耐震設計に使うときはもっとそれぞ れの場所をどうPS検層ちゃんと確認した上でそこに入力をしてるということも ありますので、
1:39:09	おっしやる通り、少しちょっと
1:39:11	この考え方の整理は必要だろうと思いますが保守的な評価には問題なくなっ ているというふうには考えております。
1:39:22	はいサグチでちょっともう 1 個確認、もう 1 個とか、今のちょっと
1:39:28	説明で保守的な評価というのは、既許可のときに、
1:39:33	の方が今よりは、
1:39:35	保守的な
1:39:36	評価なのか、今回の

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:39:42	79 億
1:39:44	ほかにしたほうが、
1:39:45	保守的なのか、これどっちなんです。
1:39:50	そういう意味では
1:39:53	何でしょう解放基盤より上を考えた剥ぎ取りをするっていうときには変わらない というのは申し上げている通りでそこ 820 を考えてやってますので、変わらない です。それから今回のように下から上げてくる場合には、
1:40:08	Vs小さくなるほうがやはり揺れとしては大きくなりますので、そういう意味で も、
1:40:13	1110 よりは契約 97 のほうが
1:40:17	揺れの評価としては保守的になるんだろうというふうに思ってますけれどもそ このはぎとりにはすいません何度もあれですか。
1:40:25	はぎとりは解放基盤より上のモデルで 820 でやっておりますので、そこについ ても違うということでございます。
1:40:35	はい。
1:40:37	説明自体はどういうふうに説明されたっていうのは一応理解をしましたようは 820 というのがはぎとりモデルのところなんで、別にそれがそこで剥ぎ剥ぎ取っ ている以上は、今回も含めて、その下を変えているので、
1:40:55	関係ありませんよ。そういう。
1:40:59	ね。
1:41:00	ということは、
1:41:01	で、
1:41:05	ただちょっと
1:41:11	ちょっと私は本当は、
1:41:13	この解放基盤面で接続していたのかなと企業間の
1:41:19	資料を見るか。
1:41:21	資料
1:41:22	それから、
1:41:23	嫌がらせ 14 メーターまでを 820 でその下を 1111 てたのかなと実は既許可思 ったんですけど、そういうわけじゃなくて、今回出されたように、
1:41:34	このマイナス 250 名される下のところ求めるには、同じように、今回も、それか ら既許可のときも、
1:41:42	〇とか、
1:41:44	マイナス 300m、
1:41:45	マイナス 250 メーターからマイナス 300 メーターまでっていうのを安全に

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:51	同定した形で、
1:41:54	深いところモデルは設置
1:41:58	そう。まずその理解でいいです。
1:42:00	そこについては、その通りでございます。
1:42:21	タニですけども、何かさっきの保守的な話っていうのをもう1回確認すると。
1:42:27	284 戸の 80 ページで 284 以深に、例えば今回だったら 997 を入れて、
1:42:37	剥ぎ取る。
1:42:39	250
1:42:42	250 より深いところに入れて剥ぎ取るよりも、今の 820 のまんまで剥ぎ取った方が、
1:42:50	保守的なはぎとりはできるっていうような説明。
1:42:53	はい。剥ぎ取りについてはそうです。もし変えたとすれば
1:42:59	もう今 80 ページで書いているモデルの 284 より下も今、
1:43:06	ここ同じ 820 の層として評価をしてここで剥ぎ取ってますけれども、今の御質問の御趣旨としてはこの 284 より下は、
1:43:15	と思っとかタニーにしたほうがいいんじゃないかということだというふうに理解をいたしますけれども、
1:43:21	そうすると剥ぎ取りをする基盤層はやはりかたくなるということですから、基本的には 820 ではぎとりが保守的なというふうに考えて、
1:43:32	規制庁タニです。はい。
1:43:34	えっとね、ちょっとその辺を、その辺はあって今のこういったやり方をしてるんだったら、
1:43:40	ちょっと何か 1 分、
1:43:44	ここを実際に入れるよりも保守的になってるんだっていうのを説明入れておいてもらったほうがいいのかと思うんです。
1:43:52	こっちいたしました後の検討検討とかの反映するようにいたします。
1:43:59	繰り返して申し訳ありません。前はそれ、それよりさらにこう一步進んだような大丈夫ですっていうような検討してしまったところがあってそこご質問の趣旨等整合しなかったということでございましたので、今御説明したような内容について設計をするようにいたしたいと思います。
1:45:08	あとですね、ちょっと 33 ページで、
1:45:13	33 ページで、
1:45:17	観測記録 12 校観測記録があるんだけど、荒浜側と大湊側で、
1:45:24	観測記録ができる。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:25	取られているうちの 5.2 を選んでるっていうことだと思うんですね、マグニチュード大きいこれってでもあれなんですかね、例えば荒浜側だけを言うと、もっと
1:45:38	例えば 4. Mj4.8 だとか 4.6 だとかそういったものもあって、
1:45:44	日隔週と思ったら比較できるんですよね。そんな比較とかって、
1:45:50	資料にはないんですけど、やられてるんですか。
1:45:58	ここで選んでいるマグニチュード 5.2 の地震ですけども、これほどの規模がないと、短周期も長石もそうですけども
1:46:09	そこら辺の精度がないのかなということで、今回につきましては、マグニチュード 5.2 の一番規模が大きくて、全周期体に対して適用できるだろうということ。
1:46:22	ことを考えて今回は一番大きいものを選んで、
1:46:30	中小タニです。母校とかを超えないとっていう話ですか。でも同定で 4.8 とかでやっている。
1:46:37	ですけど、そんなのが多いとってですか。
1:46:43	XI東京電力補助です今回選んだと 5.2 のやつ結果を見ると、そんな変な傾向になっていないので他
1:46:54	問題となるようなものじゃないと考え、
1:47:00	タニです。はい。今回確認しました。
1:47:22	規制庁タニですけど、
1:47:25	嘘だとかタジマさんとかは今の議論聞いてて議論じゃないか確認を聞いてて堂々と何かありますか。
1:47:37	規制庁のタジマベース一等 1 点ちょっと案の 2 点確認なんですけど、1 点目はですね、
1:47:49	例えば、
1:47:50	4.4 節の妥当性新その大深度今回あのも新しいモデルの妥当性確認というところで、自分としてはもともとこの
1:48:06	40
1:48:08	40 ページですとか、予算 19 ページ。
1:48:12	から 38 ページからの統計的グリーン関数法による地震動評価のところは説として違うんですが神山の観測と今回の耐震のモデルである程度こう地下深部も含めた地震基盤も含めた深部の
1:48:32	一番の妥当性を見ることができるのかなと思っていたんですが、例えば
1:48:40	それで 39 ページの荒浜側とかに関してはもともと到来方向であったり、多次元の影響があるので、後で 81 ページで確認というのもされたりして補足 3 というので確認されたりしてるんですが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:58	例えば、40 ページですと先ほど単にタニとかサグチからも確認があったようにf max話とかがあるので、今回の赤の線というのは、観測に比べて過小になっているけれども、
1:49:16	従来のS字モデルが
1:49:20	よいというようなお話があったりして、ただそれもそういうことがちょっと入ってしまうと、結局大深度モデルの地震基盤とか深部も含めた妥当性の確認というのはどこでされているのかなというのがちょっと
1:49:39	そうですね。
1:49:40	ちょっとわからなくなってしまったので、すぐがまずそれについてちょっと教えていただくと助かります。
1:49:49	東京電力スギモトでございます。まず速度構造については同じ 4.4 の 27 ページ。
1:50:02	お示ししている通り、
1:50:04	これ反射法に基づく二次元モデルというのが、この左側にあって、それとの対応を確認するというので、
1:50:15	そこの構造自体なんにもないところから同定してるわけじゃなくて、こういうようなものとの整合というのも確認をしているということでございますそれから、それがあつた上で
1:50:29	我々としても深いところからのモデルの妥当性っていうのはSGFでやれば確認できるだろうというところでお示しをしているところでございます、これは前回の議論でも私ご回答させていただいたと思うんですけどおっしゃると 40 ページはちょっと
1:50:47	特にUD方向なんかは過小なんだろうというふうに私も認識していったね、それは御指摘踏まえて、少し今回原因をよくよく整理をさせていただいて、やはりf maxで落としているところでこういう違いが出てくるんだろうと。
1:51:04	いうのはご指摘を踏まえても我々も整理ができたところだと思っています。一方で 38 ページ目これも前回申し上げましたけど、38 ページ目の中越地震については、
1:51:18	もちろんそのペーパー程度の違いというかそういうのがありますけれども、これ見ていただいて、赤を黒の比較をしていただいて、決して今回のモデルが妥当ではないという結果ではないというふうに思いますので、
1:51:34	おっしゃる通り、40 ページ目は多少仮称になっているところもありますので、そういったところも含めて総合的に見る必要があるんだろうと思いますビシッとこれだけで大丈夫だということではないと思いますけれども 3840 見ていただいて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:51	今回のモデルの深部がおかしなことになってると、我々としては思っていないと。
1:51:57	ちゃんと評価できているだろうというふうに考えているということでございます。
1:52:03	町のタジマです。御説明ありがとうございます。はい。どう考えていらっしゃるかということは、排気回収したんでその上でなんですけれども、荒浜側に関しては同じように、
1:52:20	うん。同じような確認、
1:52:23	そうですね、稠密地震結果は載せてないんですかね。
1:52:28	ただみたいなことをやった上で、多次元の影響という話で、念のための補足というのを議論の余地があるということを考えてされてるじゃないですか 81 ページで、それと同じことをやはりちょっと議論の余地があるだろうということで、
1:52:47	大湊側に関しても、
1:52:50	やってみてもいいんじゃないかというように、普通にこう見ていると思うんですけども、その辺やっていない理由とかありましたら教えていただけると助かります。
1:53:04	東京電力スギモトでございます。大湊側ですね、結局あのときにいろんな観測記録ですとか解析的検討をやって到来方向別の影響はないということを確認してございますので、
1:53:19	それで一次元で評価をできるだろうということをやっています。ですので大湊側については荒浜の確認でやったような、その一部の到来方向から来る波が大きくなるというような影響、これらの褶曲構造の断面を見てもそうですけど、大湊側褶曲の影響を受けないような
1:53:38	場所にあるということ効率許可でいろいろ検討を積み重ねて確認をしてきたということでございます。
1:53:50	考えわかりました。はい。ありがとうございます。
1:54:04	規制庁たんですけど、タジマさんもういいですかね。
1:54:08	規制庁タジマです。はい。はい、もう大丈夫です。
1:54:12	はい。釜山とは何かありますか。
1:54:16	はい、規制庁の売れずこちらCから 2 点ほど確認した。
1:54:23	タニですけど、もうちょっと大きな声でマイク近づけてしゃべってください。ちょっと最初からお願いします。はい。
1:54:31	すみません今聞こえますか。
1:54:34	今日 2 点ほど掲げさせられます 21 ページのほうでお願いします。
1:54:40	M先ほど
1:54:42	タニさんとさっきタームをも確認後も再確認したいと思います。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:50	具体の方が検討中県にから3のエタニですね、E-3-1を同じ。
1:54:57	御進言協力もほぼ同じで見かけ入射角、
1:55:01	もうほぼ同じテーマ自身機構が4.8がこうで、
1:55:06	12件、この範囲で
1:55:09	絞ったらもう三つしかないですね、こういう回答になってますと、実際の22ページをもう1回見るとそうでもない一つの凡例があります。
1:55:19	右側の20042004年の12月28日の地震、
1:55:28	でも地震キーポイントこれんであろうと支援を受ける三極キーポイント見かけ77と。
1:55:34	そしたらでいいの。
1:55:36	三番目の丸の地震と全く同じ数値になってますが、
1:55:41	そうするとさっきの説明が合わないような意見も推測すると思ひも見てるではないかという斜角だけでなく、行為もそろってる要件も一つあるんじゃないかと。これが確認したいです。
1:55:55	東京電力のフジオカです。ご指摘の通りで選んだ地震群が
1:56:04	受振間の距離が近いという条件もあるので、そういった点につきましてはこの記載を改めて修正させていただければと思っています。
1:56:17	はい、何がどこでありますとですね、
1:56:22	先ほども佐々木さんがもう確認さ23ページと24ページのほうで、一応今回のほうの
1:56:30	今日加熱チームの方に比べであった方の手法がですねあのこうだ、
1:56:36	打破の一応不要Marching追加してやっていますと、
1:56:40	先ほどは何か級とかの減衰なんか土地が9とか、
1:56:46	減衰を聞いているかどうかを確認いたのがあまり言えないところで、
1:56:51	高橋司法の間で何らかの特徴あるまで例えば浅い部分で見てる強いとかガイド試みるというか、そういうような
1:57:03	何か日頃メリット、デメリットとか、何か情報がありますかね。議長おそらくは何か例えば大半の方で1の
1:57:13	b項のほうで合わすように、今おっしゃったようですから、そうすると推測をすると、後段の方が深い部分の見てるだろうと推測してますが、この理事会の形でしょうか。
1:57:26	東京電力の藤川です。ご指摘の通りコードはもちろん責任のところ見ているので深いところの影響がよく入ってる表になって、
1:57:36	思っで。
1:57:41	はい、ありがとうございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:43	どうもSiatol例えばさつき重みをかけるときがこのような企業ありますから重みをかけてます。
1:57:50	説明したら儲かるやすいかなと粘土です。私から以上です。
1:58:29	規制庁タニです。
1:58:33	確認はもう時間も押してるし、以上にしたいんですけど、これ資料ももうちょっと追加するっていう話ありましたけど、どれぐらい時間かかりそうですか。
1:58:42	東京電力スギモトです。また、2週間くらいで提出するようになりたいと思います。
1:58:48	もう少し早く
1:59:00	。
1:59:31	規制庁刀禰です。
1:59:33	例えば、最短で、
1:59:36	11月末に会合とかになってくともうちょっと早い。
1:59:40	これはならないすか承知を日程に合わせて対応する。
1:59:46	規制庁谷筋はまた資料でき、できそうな日にちがわかったらまた連絡いただけたらと思います。
1:59:55	当東京電力からは何かないですか。
1:59:59	大丈夫ですか。
2:00:03	はい。結構でございます。
2:00:10	規制庁タニですそれで本日の面談を終わりにします。お疲れ様でした。
2:00:15	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。